

第6学年 社会科学学習指導案

1. 小単元名「条約改正プロジェクトを担った人々と日清・日露戦争～日本の国力は本当に高まったのか?～」

2. 指導観

- 子どもたちは、歴史的事象に興味・関心をもっている子どもが多い。前小単元までに追究してきた西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允を中心とする明治政府の国づくりの学習において歴史的な事象やその時代を象徴する人物とのあいから、人物の行為のわけや願いを調べ、自分なりに価値判断をしていくことが大切であることを学んできている。また、長い歴史の中で、先人たちの働きにつながりによって現在の自分たちの生活が成り立っていることをとらえてきている。さらに、学び方の面においては、社会的な事象に対する自分の考えに応じて、調査・見学等の体験的活動やインターネットを活用した追究活動、調べたことを絵や図で表した表現活動を経験してきた。そして、根拠付けや事実をもとに自分の考えを筋道立てて構成したり整理したりすることができるようになってきている。その結果、子どもたちは、社会的な事象を広い視野からとらえることが大切であることに気づき、事象の意味について考えを練り上げることができるようになりつつある。
- 本小単元は、日本が国力を高め、西欧諸外国に追いつき追い越そうとした日本の政策や、その中心となった人物について、調べることを通して、日本が条約改正を中心として、様々な政策によって近代化の道を行ってきたことや、その過程において国内外に大きな影響を与えてきたことをとらさせようとするものである。明治政府の条約改正への歩みは、1871年の岩倉使節団の欧米派遣に始まり、井上外相の欧化政策(鹿鳴館外交)、大隈外相の条約改正交渉など、歴代の外務大臣が欧米諸国を相手に努力を続けてきたが、どれも失敗に終わっていた。このような過程を経てようやく1894年、陸奥宗光外相がイギリスとの間に「日英新通商条約」を結び、治外法権の廃止に成功した。このような条約改正の歩みから、条約改正に成功したわけについて子どもたちに大きな驚きや疑問をもたせることができる。(感動性)また、条約改正の背景には、当時の国民の不満と欧米諸国の強さとの狭間で思い悩んだ陸奥宗光の考えがあったであろう。陸奥宗光を中心に追究させることで、子どもたちは、当時の歴史的背景をもとに、国民の願いや明治政府の近代化政策、対外関係を総合的にとらえていくことが可能になる。(多面性)このように、陸奥宗光と条約改正を取り上げ、日清・日露戦争後の影響について追究していくことは、その時代を必死に生きた人間の生き方や時代背景をとらえることができ、自分の生き方を考えることができる。
- 本小単元の指導にあたっては、「見つめる」段階では、治外法権の不合理性を心情的に理解させるために、ノルマントン号事件の絵に救助されなかった乗客や当時の国民の気持ちを吹き出しに書いて考えさせる。学習問題については、明治の始めから条約改正交渉の内容や方法、失敗した理由などを理解させるために、条約改正の歩みを年表にして提示し、「陸奥宗光は、なぜ条約改正を成功させることができたのだろうか」をつくらせたい。「見分ける」段階では、陸奥宗光の行為について、根拠を明らかにした表現物をつくるために、子どもの考えに沿った資料提示や考えを整理することができるような学習相談の場を確保する。調べた後の交流活動では、それぞれの考えを支える事実が多く出てくると思われる。そこで、それぞれの考えを関連付ける活動をおこない、最初の交渉相手にイギリスを選んだ陸奥宗光の国際的な視野の広さに気付かせていきたい。「見極める」段階では、日清・日露戦争について調べ、日本の国力は高まったが、本当の意味で高まったと言えるのかどうかを考えさせるために、東郷平八郎と与謝野晶子の考え方をもとに話し合わせ、子どもたちの考えを見直させていきたい。

3. 小単元の目標

- 陸奥宗光らの条約改正のための交渉や日清・日露戦争の影響について意欲的に調べ、当時の人々の働きに共感することができる。(関心・意欲・態度)
- 条約改正ができたわけや日清・日露戦争の影響について当時の時代背景や、人々の考え方など、様々な観点から多面的に考え、自分の考えを見直すことができる。(思考・判断)
- 陸奥宗光らが条約改正できたわけについて、資料収集などの調査活動を行い、歴史的な事実を根拠とした自分なりの表現物をつくり、友達に分かりやすく伝えたり話し合ったりすることができる。(技能・表現)
- 陸奥宗光らの条約改正のための交渉や日本の近代化、日清・日露戦争により、我が国の国力が充実し、日本の国際的地位が向上したことを理解することができる。(知識・理解)

4. 指導計画 (全 11 時間)

□ : ねらい ■ : 手立て

段階	配時	主な学習活動と内容	立ち止まりの場面と教師の支援
<p>子どもを引きつける教材とのあわせ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ノルマントン号事件の風刺画に救助されなかった乗客や当時の国民の気持ちを吹き出しに書かせる。 ※治外法権の不合理性を心情的に理解させるため。 ○ 裁判結果に対して条約改正を求める国民の声が一段と高まった事実を提示する。 ※不平等な条約がどのように改正されていったのか、追究していく意欲を高めていくため。 			
見 つ め る	2 ① ①	<p>1. ノルマントン号事件や条約改正の歩みについて調べ、条約改正について調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p> <p>① (1) ノルマントン号事件について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノルマントン号事件(1886年) ・ 和歌山県沖でイギリス船が遭難 ・ 日本人全員が死亡 ・ イギリス船長は、軽い罪 ・ 条約改正を求める国民の声が高まった <p>① (2) 条約改正への歩みについて調べ、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩倉使節団(1871年)…失敗 ・ 鹿鳴館外交(1883年～)…失敗 ・ 大隈外相も失敗、青木外相も辞職 ・ 陸奥宗光…治外法権の廃止(1894年) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><学習問題> _____</p> <p>陸奥宗光は、なぜ条約改正を成功させることができたのだろう。</p> </div>	<p>○ 治外法権のほかに、関税自主権の問題もあったことに気付かせるために、外国と結んだ不平等条約を想起させる。</p> <p>○ 陸奥宗光が条約改正を成功させたことに疑問をもたせるために、明治の始めから条約改正交渉の内容や方法、失敗した理由などが分かる条約改正の歩みを年表にして提示する。</p>
1 ^ 本 時 ▽ / 見 分 け る	2 ① ①	<p>2. 学習問題に対する考えを話し合い、調べる視点や、表現方法を決める。 (予想される子どもの考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国民を納得させる内容を考えた(国民を納得させた) ○ 外国に日本の近代化を認めさせた(外国を納得させた) <p>(調べる視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全面対等改正案 ○ 富国強兵 ○ 文明開化 ○ 憲法制定と国会開設 など <p>3. 学習問題に対する考えに沿って調べ、調べたことをもとに中間交流会を行う。</p> <p>① (1) 自分の考えの根拠について調べ、考えを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が考えた表現物の根拠となる事実を集める。 ○ 集めた事実を根拠に陸奥宗光の行動のわけについてフリップに表し、考えの違う友達に伝えるための表現方法を考える。 <p>① (2) 自分たちの作った表現物をもとに中間交流会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちのグループの主張点を明らかにする。 ○ 考え方の違うグループへの質問や意見を明らかにする。 ○ 友達からの質問や指摘をもとに自分たちの考えを見直す。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">見つめる立ち止まり</p> <p>□ 学習問題を調べていく2つの大きな視点をもたせるため。</p> <hr style="border: 0.5px dashed black;"/> <p>■ 条約改正交渉の事例をあげ、陸奥宗光はなぜ条約改正に成功したか調べていくための明確な課題として、対国民、対外国の2つの視点に気付かせるようにする。</p> </div> <p>○ 自分たちの表現物をもとに明らかになった違う考えのグループへの意見や質問、それに対する自分たちの答えをあらかじめ準備し、話し合いが活発になるようにする。</p>

見
分
け
る

1
△
本
時
▽

4. 自分の考えに沿って作った表現物をもとに、学習問題について話し合う。

A 国内を納得させる内容

政府や国民が納得するような(内容)改正案を考えたから

- 全面对等改正案
- ・外国人の裁判官は雇わず、日本人が裁判する。

条約改正の交渉をするための条件を整えた。

B 外国を納得させる内容

外国に日本の文化が進んできたことを認めさせたから

- 富国強兵
- 文明開化
- 国会開設と憲法制定

外国が納得するような交換条件を考えた。

陸奥宗光は、国民が納得できる内容(全面对等改正案)にし、イギリスとロシアの関係に目を付け、交渉をうまく進めていったから、条約改正に成功した。

○それぞれの考えを、資料を指し示し、それを根拠にして発言できるように、自由に動けるような学習形態にする。

見分ける立ち止まり

□陸奥宗光の国際的な視野の広さに気付かせるため。

■当時の国際情勢が分かる世界地図を提示し日本と不平等条約を結んだ5カ国との関係を考えさせる発問をする。

／
見
極
め
る

3

①

5. 日清・日露戦争について調べ話し合い、新たな課題をつかむ。

①

(1) 日清・日露戦争について調べる。

①

(2) 日清戦争(1894年)について話し合う。

- ・朝鮮をめぐる清と日本が戦った。
- ・戦争に勝って、領土と賠償金を得た。

①

(3) 日露戦争(1904年)について話し合う。

- ・満州と朝鮮をめぐるロシアと日本が戦った。
- ・日本海海戦で、東郷平八郎が活躍した。

日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのだろうか。

○日清・日露戦争について関心をもたせるために、2つの戦争に関する風刺画を提示する。

○それぞれの戦争の原因が、アジアへの勢力拡大にあったことをとらえさせる。

2

①

6. 戦争の後、日本の国力が本当に高まったと言えるのかどうか、判断したことをもとに話し合う。

①

(1) 東郷平八郎と与謝野晶子の考えをもとに、根拠のある自分の考えをつくる。

①

(2) 考えを出し合い、条約改正と日清・日露戦争についての考えを高め、学習をまとめる。

△

本

時

▽

A 高まった

【軍事力】

・日清・日露戦争に勝利したことで、軍事大国として認められた。

【日本と外国との関係】

・不平等条約が改正されたことで欧米諸国と対等な関係になった

B 高まったと言えない

【国民の豊かさ】

・戦争で多くの人々が亡くなった。
・重い税金に苦しむ生活。

【外国への影響】

・朝鮮や中国の人々の苦しみ

条約改正や2つの戦争によって日本の国際的地位が向上し国力が高まったと言えるが、一人一人の国民の暮らしを考えると、本当の意味では高まったとは言えない。

○新たな課題に対する自分の考えをもたせるために、今までの学習やその当時の考え方のモデルとして、東郷平八郎と与謝野晶子という2人の人物を提示する。

見極める立ち止まり

□日露戦争が果たした意味について、考えを深めさせるため。

■当時、戦争に反対する声をあげていた人々の考えを提示したり、郷土史家にその当時の国民の暮らしを聞かせたりする。

第6学年 本時指導案

「不平等条約の改正することができた予想について話し合う場面」(3/11)

5. 本時目標

- ノルマントン号事件の風刺画や年表から、不平等条約の改正には陸奥宗光の様々な工夫や努力がありそうだとすることに気付くことができる。(思考・判断)
- 不平等な条約の改正について関心をもち、陸奥宗光はどのようにして不平等条約を改正することができたかという学習問題をつくることができる。(関心・意欲・態度)

6. 本時学習にあたって

前時までに子どもたちは、まず、ノルマントン号事件の風刺画をもとに、日本人乗客23人全員がおぼれ死んだことやその後の裁判でイギリス人の船長と船員が無罪同然になったことなどノルマントン号事件についての概要を知り、その原因が幕末に結んだ不平等条約にあったことについて気付いている。次に、年表をもとに不平等条約を改正しようとする動きを確認し、交渉が失敗したことや、1894年陸奥宗光外相の際に不平等条約が一部改正されたことから、なぜ不平等条約を改正できたかを調べたいという意識をもたせ、学習問題「陸奥宗光は、なぜ不平等条約を改正することができたのだろうか」と設定した。そして、学習問題の答えを年表をもとに考え、一人一人が根拠のある予想を立てることができている。

そこで本時では、「陸奥宗光は、なぜ不平等条約を改正することができたのだろうか」の答えの予想を根拠をもとに話し合う活動を通して、自分の予想を見直したり、付け加えたりしながら、調べていくことを明確にし「国民を納得させる内容を考えた」「外国に日本の近代化を認めさせた」という大きな2つの調べる視点に気付き、調べる計画たてることのできるようになることをねらっている。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- 学習問題の答えを予想を自分なりの根拠をもとに話し合いをさせるために
 - ・ 相手の根拠に分からないところがあれば質問し、分からないところを明確にするように話し合いを進めていく。
 - ・ 自分の予想に付け加えたり、書き直したりしながら、自分が何を調べていけばよいか、自分なりの課題をつかませるようにする。
- ※ 子どもたちの思考が分かるように、予想を国民を説得する予想と外国に認めさせる予想の2つに分けて板書していく。
- 予想を発表した中から、「外国に認めさせようとした」事実を取り上げ、予想の通りにしていたのに条約交渉が失敗した事実を取り上げ、なぜ成功しなかったか考えることで、何を調べたら学習問題の答えに迫ることができるか考えさせるために
 - ・ 鹿鳴館をめぐる交渉がなぜ失敗に終わったのかを話し合わせ、それぞれの予想についてさらに詳しく調べていく視点を考える。
- 明確になった分らないところからこれから何について調べていくかを明確にさせるために
 - ・ 何が分かれば学習問題の答えにつながるか話し合い、大きく2つの視点に分かれることを確認し、これから調べる課題を明確にする。

7. 本時の展開

□：ねらい ■：手立て

主な学習活動と内容（※教師の支援）	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1)前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノルマントン号事件 ○不平等条約改正までの道のり <p>(2)本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 学習問題の答えの予想を話し合い、調べることをはっきりさせよう。</p> </div> <p>2. なぜ不平等条約が改正できたのか、自分で考えた予想と根拠を話し合う。</p> <p>(1)資料をもとに、なぜ不平等条約が改正できたのか予想と根拠を話し合う。</p> <p>※これまでの条約改正交渉の失敗をもとに、陸奥宗光が考えたと思われる内容や方法を予想するように助言する。</p> <p>(2)不平等条約改正の交渉で失敗した事例を挙げ、なぜ失敗したかそれぞれの根拠を話し合い考えることで、国民を納得させたという視点と外国を納得させたという視点の2つの視点に分け調べていく計画を立てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 20px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>A , 国民を納得させた</p> <p>国民を納得させる内容を考えた</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>B , 外国を納得させた</p> <p>外国に日本の近代化を認めさせた</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 2px dotted black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・全対等改正案 ・日本の近代化 (富国強兵, 文明開化, 憲法制定と国会開設) </div> <div style="border: 2px dotted black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化 (富国強兵, 文明開化, 憲法制定と国会開設) </div> </div> <p>※予想の話し合いから、「国民を納得させた」「外国を納得させた」という2つの方向に大きく分けるようにし、予想の根拠を確かめるための調べる計画を立てさせる。</p> <p>3. 「今日の学習で」を書き、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えの変容について ○自分が調べていくことについて 	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノルマントン号でおきた事件はひどい。 ○不平等条約が改正できたのはなぜだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ○陸奥宗光はこれまでの内容や方法と違ったことを考えたに違いない。 ○国民を納得させる内容を考えたのではないかな。 ○外国に日本の政治や文化が進んだことを認めさせたのではないかな。 ○外国が納得するような話をもちかけたのではないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">見つめる立ち止まり</p> <ul style="list-style-type: none"> □学習問題を調べていく2つの大きな視点をもたせるため。 ■まず、条約改正交渉の事例をあげ、失敗したか成功したか資料の一部を隠すことで、子どもたちに考えさせる。次に、「何が失敗した理由だと思う」という発問から、国民を納得させていないという理由と外国を納得させていないという理由で考えを対立させる。そして、陸奥宗光はなぜ条約改正に成功したか調べていくための自分の明確な課題として、対国民、対外国の2つの視点に気付かせるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○陸奥宗光がどのように交渉していったか調べよう。

第6学年 本時指導案

「なぜ条約改正を成功させることができたのかについて考える場面」(6/11)

5. 本時目標

- 陸奥宗光がどのようにして条約改正をしたのかを国際的な視野から考え、自分の考えを見直すことができる。(思考・判断)
- なぜ条約改正を成功させることができたのかについて、調べてわかった事実や資料を根拠にしてわかりやすく発表することができる。(技能・表現)

6. 本時学習にあたって

前時までに、学習問題「陸奥宗光は、なぜ条約改正を成功させることができたのだろうか。」をつかみ、自分の考えを確かめるため、郷土史家の方に尋ねたり、写真などの資料を活用したりして追究し、わかった事実を根拠にした自分の考えを表現物としてフリップ(大型のカード)に表している。さらにその表現物をもとに考えを交流し、自分の考えを付加修正、強化してきている。

そこで本時では、学習問題の答えを話し合う交流活動を通して、それぞれの考えを関連づける活動を行い、陸奥宗光が国民や外国に対して日本の近代化を訴えることで、両方を納得させることができたことに気付かせていく。

そして、さらに不平等条約を結んだ5カ国のうち、最初の交渉相手としてイギリスを選んだ陸奥宗光の国際的な視野の広さに気付かせていくことをねらっている。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- 「陸奥宗光は、なぜ条約改正を成功させることができたのだろうか。」という学習問題に対して、自分なりの考えを出し合いながら友達と考えと関連付けた話し合いをさせるために
 - ・ 考えの相違点が視覚的にわかるような構造的な板書をする。
 - ・ 自分の考えを「考え」「根拠」の2つに絞ってフリップ(大型のカード)に書かせ、それをもとに発表させる。
 - ・ 資料を指し示しながら発表できるように、自由に動き回れるような学習形態にする。
- 不平等条約を結んだ5カ国のうち、最初の交渉相手としてイギリスを選んだ陸奥宗光の国際的な視野の広さに気付かせるために
 - ・ 世界情勢がわかる世界地図を提示し、どの国から交渉すれば条約改正がうまくいくかじっくりと考える時間を設ける。
 - ・ すでに学習した内容や資料をもとに自分の考えをつくれるように、学習の足跡や使った資料を掲示しておく。
 - ・ 考えを交流させるときは、なぜその国と最初に交渉することがいいのか理由を明らかにさせながら話し合わせるようにする。

7. 本時の展開

□:ねらい ■:手立て

主な学習活動と内容 (※教師の支援)	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 前時を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>陸奥宗光が条約改正に成功したわけについて話し合おう。</p> </div> <p>2. めあてについて話し合う。</p> <p>(1)なぜ、条約改正を成功させることができたのか話し合う。</p> <p>○国民を納得させることができたから (根拠)・全面対等改正案 (外国人の裁判官を雇ったりしない) ・日本の近代化 (富国強兵, 文明開化, 憲法制定と国会開設)</p> <p>○外国に日本の近代化を認めさせたから (根拠)・日本の近代化 (富国強兵, 文明開化, 憲法制定と国会開設) ※自分の考えの根拠となる資料を提示して話し合わせる。</p> <p>(2)陸奥宗光が最初にイギリスと交渉をしたという判断について話し合う。</p> <div style="text-align: center;"> <p>友好的なアメリカ 寺島宗典外務卿のときに、条約改正に合意。 大隈重信外務大臣のときに、条約改正に合意。</p> <p>日本</p> <p>条約改正に猛反対のイギリス 日本にはまだ法律が整備されていない。そんな国に裁判権を認めるわけにはいかない。</p> <p>ロシア シベリア鉄道建設, 極東進出 アジアにおけるロシアの強大化</p> <p>条件 (between Japan and UK) 脅威 (between Russia and UK)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>陸奥宗光は、国民が納得できる内容(全面対等改正案)にし、イギリスとロシアの関係に目をつけたから、条約改正を成功させることができた。</p> </div>	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <p>○今日は、陸奥宗光が条約改正に成功したわけについて根拠を明らかにして話し合おうぞ。</p> <p>○陸奥宗光は、国民も外国も両方を納得させる内容や方法を考えるのに悩んだのだろう。それに、もうこれ以上交渉を失敗させられない状況があったのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>見分ける立ち止まり</p> <p>□陸奥宗光が国際的な視野の広さで条約改正の交渉に臨んだことに気付かせるため。</p> <p>■当時の国際情勢がわかる世界地図を提示する。</p> <p>■「日本と不平等条約を結んだ5カ国のうち、陸奥宗光はどの国と最初に交渉をしたのか。」という考えを深めさせる発問を行う。</p> </div> <p>○アジアをめぐるロシアと対立していたイギリスと最初に交渉したところが、陸奥宗光の視野の広いところ、賢いところだし、人を上手に使う力もあったんだな。</p>
<p>3. 今日の学習を振り返る。</p> <p>○「今日の学習で」を書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの変容について ・陸奥宗光の交渉の仕方について 	

第6学年 本時指導案

「日本の国力の向上について考えを深める場面」(11/11)

5. 本時目標

- 日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのだろうかという課題に対して、自分なりの考えを友達に提案し、当時の日本の国力の向上について自分の考えを見直すことができる。(思考・判断)
- 日露戦争後に、日本の国力が高まったのかどうかについて、根拠となる資料を活用して話し合うことができる。(技能・表現)

6. 本時学習にあたって

子どもたちはこれまで、陸奥宗光が、国内が納得できる内容(全面対等改正案)にし、イギリスとロシアの関係に目を付け、交渉をうまく進めていったから、条約改正に成功したということをとらえてきている。

本小単元で重点化したいことは、日本が国力を高め、西欧諸外国に追いつき追い越そうとした日本の政策や、その中心となった人物について、調べることを通して、日本が条約改正を中心として、様々な政策によって近代化の道を歩んできたことや、その過程において国内外に大きな影響を与えてきたことをとらえていくことである。

前時までに子どもたちは、陸奥宗光の条約改正の取組や歴史的な事実から、学習問題「陸奥宗光は、なぜ条約改正を成功させることができたのだろうか。」について話し合った。追究段階で、当時の国民の不満と欧米諸国の強さとの狭間で思い悩んだ陸奥宗光の考えにふれてきた。そして、陸奥宗光が、国内が納得できる内容(全面対等改正案)にし、イギリスとロシアの関係に目を付け、交渉をうまく進めていったから、条約改正に成功したという見方・考え方をもっている。さらに、日清・日露戦争について調べ話し合う中で、新たな問題意識をもち、「日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのだろうか。」という課題について自分なりの考えをもっている。

そこで本時では、「日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのだろうか。」という課題に対して、自分なりの考えを根拠となる資料を活用して友達に提案し、話し合う中で、当時の日本の国力の向上について自分の考えを見直させることをねらっている。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- ① 日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのだろうかという課題に対して、自分なりの考えを友達に提案し、当時の日本の国力の向上について自分の考えを見直させるために
 - ・ 友達の考えで受け入れられる部分とそうでない部分を明らかにさせ、当時の日本の国力の向上について、見直させる。
 - ・ 「当時の人々にとってこの2つの戦争は、やむを得ないことだったのか？」と問いかけたり、当時の国民の考えを提示することで、当時の国民にとって「日露戦争が果たした意味」とは何か考えさせる。
 - ・ 郷土史家の〇〇さんに子どもたちの話し合いを評価していただく。
- ② 日露戦争後に、日本の国力が高まったのかどうかについて、根拠となる資料を活用して話し合うことができるようにするために
 - ・ 明らかになった、相手のグループへの意見や質問に対する自分たちなりの答えを整理させ、「軍事力」「日本と外国との関係」「国民の豊かさ」「外国への影響」などの視点にそった話し合いを行うよう助言する。
 - ・ 自分の考えを資料をもとに発言させるために、掲示している資料を活用して発言ができるよう、子どもが自由に動きながら話し合えるような形態をつくる。

7. 本時の展開

□：ねらい ■：手立て

主な学習活動と内容（※教師の支援）	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. これまでの学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 陸奥宗光らの交渉によって、不平等条約が改正されたこと ○ 日清・日露戦争によってさまざまな影響があったこと めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるかどうかについて話し合い、自分の考えを見直そう。</p> </div> <p>2. 考えを提案し、日本の国力が高まったかどうかについて話し合う。</p> <p>(1) 国力の向上についての自分の考えを提案する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>A 国力が高まったと言える</p> <p>【軍事力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争に勝利したことで、軍事大国として認められた。 <p>【日本と外国との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約が改正されたことで欧米諸国と対等な関係になった。 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">⇔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>B 国力が高まったと言えない</p> <p>【国民の豊かさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争で多くの人々が亡くなった。 ・重い税金に苦しむ生活。 <p>【外国への影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島や中国の人々に大きな被害を与え、苦しめている。 </div> </div> <p>※ 意見や指摘を整理したことをもとに話し合わせる。 ※ 自分の考えの根拠となる資料を提示して話し合わせる。</p> <p>(2) 友だちの考えを聞いて、自分たちの考えを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの考えで受け入れられる部分とそうでない部分を明らかにし、日本の国力の向上についての考えを見直す。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・条約改正や日清・日露戦争の学習をもとに、当時の人々の考え方をもとに判断している。</p> </div> <p>3. 郷土史家の方の話を聞き、自分たちの提案を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 友達や郷土史家の考えで受け入れられる部分とそうでない部分を明らかにさせ、当時の人々の考え方をもとに、考えを見直させる。 ※ 「国力が高まる」とはどういうことなのか考えさせる。 「当時の人々にとってこの2つの戦争は、やむを得ないことだったのか」問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>条約改正や2つの戦争によって日本国際的地位が向上し国力が高まったと言えるが、一人一人の国民のくらしを考えると、本当の意味では高まったとは言えない。</p> </div> <p>※ 日露戦争の果たした意味について考えたことや、これまでの話し合いを、郷土史家の方に評価してもらったことをもとに、日本の国力の向上についての考えを深めさせる。</p> <p>4. 今日の学習でを書き、本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の国力の向上に対する自分の考えの変容 ○ 日清・日露戦争に対する当時の人々の考え方に共感したこと 	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日露戦争の後、日本の国力は、本当に高まったと言えるのかどうか、友達やゲストの○○先生に分かってもらうために、根拠をはっきりさせて提案するぞ。 ○ わたしは、日本の国力は高まったと言えると思う。その根拠は、日清・日露戦争に勝利したことで、軍事大国として認められたからだ。 ○ 朝鮮半島や中国の人々に大きな被害を与え、苦しめたことは、大変なことだ。外国への影響を考えると国力は高まったとは言えない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">見極める立ち止まり</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 日露戦争が果たした意味について、考えを深めさせるため。 ■ 「当時の人々にとってこの2つの戦争は、やむを得ないことだったのか」と投げかける。当時の国民の一人一人のくらしが分かる資料を提示し、郷土史家の方の話を聞く。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 条約改正ではたらいだ陸奥宗光などの立場に立つと、欧米諸国と対等な関係になったので国力は高まったと言えるけど、重い税金に苦しむ国民の立場で考えると悩むな。 ○ 2つの戦争は、やむを得ないものだったのだろうか。戦争はしてはいけないものだけど、当時はどうだったのかな。 ○ 友達の考えや郷土史家の方の話を聞いて、考え、日露戦争が果たした意味がわかった。当時の人々の考え方を知ること、考えが深まった。